

エアミス
Airmys

非実在 探偵小説研究会

11



エアミステリ研究会

非実在探偵小説研究会11号 目次

企画

企画1 お題競作「見立て」

誰のための見立て

魔性の絵たち

四重象徴殺人事件(仮)

企画2 二〇一五年度エアミス研ミステリランキング

企画3 名探偵オールタイムベストアンケート結果発表

企画4 ショート・ショート

読み切り短編

神尾文彦の追跡

1948『悪魔』

それでも夜は遠くはない

その他

〈連載〉富士見ミステリー文庫ガイド 第三回

麻里邑圭人 6

佐倉丸春 36

根倉野蜜柑 47

..... 74

松井和翠 116

..... 198

岡村美樹男 80

谷山儀式 130

松井和翠 162

ないとー 192

表紙・扉ページ ウスダアヤ

誰のための見立て

麻里邑主人

0

その老紳士が由比藤の事務所を訪れたのは、未だ残暑が厳しい九月十日、日曜の昼下がりだった。

その日も僕——国木田琢磨は、事務所にあるソファに座って、由比藤とのとりとめのない会話を楽しんでいて。こう書くと言者の中には「そんなしょっちゅう来ているなら、いつそのこと一緒に住んでしまえばいいのでは？」と思う人もいるかもしれないが、それはちよつと待つてほしい。交際十年を超える仲の良かったカップルが結婚を機に同居した途端、すぐに別れてしまう例があるように、世の中には一定の距離を保つことで成立しているものもあるのだ。もし僕が由比藤と同居したら多分、一週間——いや、三日ですら耐えられないに違いない。

それはさておき、事務所を訪ねてきたその老紳士は、ひどく顔色が悪かった。蒼白を通り越して紙のように白

く、顔には玉のような汗が幾つも浮かんでいる。僕が思わず立ち上がって向かいのソファを勧めると、老紳士は恐縮したように「すみません」と言いながらソファに腰を下ろした。

老紳士は、僕が冷蔵庫から取ってきたミネラルウォーターを飲むと、幾分落ち着いたようだった。血の気が戻ってきた彫りの深い顔に照れ臭そうな笑みを浮かべると、「お見苦しいところをお見せしてしまったようで大変申し訳ありません」

と、僕に向かって深々と頭を下げた。

「……いえいえ、とんでもないです。それより、お加減の方はもう大丈夫なんですか？」

「ええ、お陰様でだいぶ良くなりました。ところで、あなたが探偵の由比藤様でしょうか？ わたしは——」

「違いますよ」

と、老紳士の言葉を遮ったのは、ちょうどトイレから

戻ってきた由比藤だった。

由比藤は「よいしょ」と僕の隣に座ると、老紳士の顔を真つ直ぐ見据えて言う。

「彼はこの事務所とは縁もゆかりもない人間ですので、お気になさらずに。事件の依頼であれば、この私——
由比藤司が承りますよ」

「……ああ、そうなのですね。それは大変失礼しました」

老紳士は再び恐縮したように詫びると、改めて自己紹介を始めた。「わたしは埼玉県のS市で香澄書房かすみりょうたうという小さな出版社を経営している香澄龍太郎かすみりょうたうと言います。今日は名探偵として知られる由比藤様にどうしてもお願いしたいことがあつて参りました」

「お願いしたいこと……それは私が興味を惹かれそうな案件ですか？」

「ええ、もちろんです。実は——」

老紳士——香澄はそこまで言いかけたところで、何やら思わせ振りに僕を見た。由比藤はその意味を察したのか、につこりと微笑むと

「彼なら心配無用です。彼はこの事務所にこそ所属していませんが、時々私の仕事を手伝ってもらつてる信頼のおける人間なのですよ」

(……信頼のおける人間、ねえ)

何だかさつきと言っていることが一八〇度違う気がするが、老紳士の方はそれで納得したらしい。

「成る程。分かりました」と、一転して安堵の表情を浮かべると、実は——と、続きを話し始める。

「今日、由比藤様にお引き受けて頂きたいのは他でもない、娘の里菜りなのことなのです」

「娘さんのこと、ですか」

「はい。里菜は去年大学を卒業して以降、わたしの秘書をやつてもらつているのですが、その里菜が今、大変危険な状態にあるのです。それを何とか由比藤様の手で救つて頂けないでしょうか」

「ええと、すみません。もう少し分かりやすく説明してもらえませんか？」

「失礼しました。では端的に言いましょう。近々わたしの家で起こるであろう殺人事件から里菜を守つて頂きたいのです」

香澄はそう言うのと、すがるような眼差しを由比藤に向けた。

……

*

——むかしむかしの、ある夫婦の会話。

「……そういえばアンタ、聞いたかい？　昨日また例のお屋敷で人死にが出たらしいよ」

「例のお屋敷——というと、すぐその香澄様のところか？」

「ああ、そうだよ。今回命を落としたのはここ半年ばかりお屋敷に居候していた十三とかいう山伏なんだけど、現場の状況もこれまでと全く同じだったそうよ」

「するつてえとあれか？　例によつて仏さんの回りに彼岸花の花びらが撒かれていて——」

「そうそう。で、辺りには白粉おしろいの匂いが立ち込めていて、事件が起きる前には必ずにわか雨が降っているという……。噂じゃ、あのお屋敷には御狐様おきつねさまの霊が憑いているらしいじゃないか。そんなのがすぐ目と鼻の先にあると考えただけで恐ろしいったらありやしない！」

「でも御狐様は誰彼構わず祟るわけじゃないんだろう？　俺が聞いた話だと、これまで死んだのはみんな、腹に一物がある奴ばかりだったそうじゃないか」

「……確かに言われてみればそうだね。現に今回死んだ十三にしても怪しげな術を使つて香澄のご当主様をいように操り、ゆくゆくはお屋敷を乗っ取ろうと画策していたつて話だし」

「だろ？　だから俺らは別に御狐様を怖がる必要はどこにもないのさ」

*

……その事実に思い当たった瞬間、彼女は驚きのあまり心臓が止まるかと思つた。

（そうか！　犯人はあの人だったのか！）

まさかとは思ふ。普段の彼女であれば、有り得ないと一笑に付したかもしれない。

しかし、いくら彼女が否定してみたところで論理的帰結は決して揺るがない。それが何よりも辿り着いた解答の正しさを証明していた。

続きは「非実在探偵小説研究会
11号」でお楽しみ下さい。

企画2 2015年度エアミス研ミステリランキング

エアミス研研究会が選んだ2015年度のミステリランキングです。2014年9月～2015年10月の間に発売された国内ミステリ新刊書を対象としています。投票者が選んだ5作品を1位：5点、2位：4点…5位：1点として集計しました。

各作品レビュー：麻里邑主人

1位：北山猛邦「オルゴールエンヌ」【84点】

待ちに待った『少年検閲官』の続編。メイントリック自体は前例があるものの、それを巧く世界観に組み込んだだけではなく、この作者らしい切ない物語に仕上げている。北山作品中最長という長さにも納得の傑作である。

2位：深水黎一郎「ミステリー・アリーナ」【51点】

作者久々の長編は極めて本格純度の高い多重推理物。早押しクイズ番組と結び付けた理由にちゃんと必然性があり、そこに込められたテーマから本作が今だからこそ書けた作品であることがよく分かる。労作にして多重推理の極北という言葉が相応しい作品である。

3位：井上真偽「その可能性はすでに考えた」【47点】

今年度の前作は何だったのか大賞（爆）。探偵が奇跡を証明するために全ての可能性を論理的に否定みせる本作は多重推理よりもむしろ、この設定だからこそできたある離れ業により唯一無二のオリジナリティを勝ち得た作品である。

4位：早坂吝「虹の歯ブラシ 上木らいち発散」【44点】

前作も相当なエロバカミスだったが本作では更に磨きがかかっている。特に凄いのが連作の掉尾を飾る「赤は上木らいち自身の色」で麻耶並みのとんでもない趣向が炸裂、エロなくして本格の発展は有り得ないと思い知らせてくれる（？）怪作である。

5位：鳥飼否宇「死と砂時計」【39点】

世界各国から集められた死刑囚のみを収容する終末監獄を舞台にした連作ミステリ。異世界ならではの仕掛けや謎を通して描かれる人間ドラマはさることながら、そこかしこに見られる「法月綸太郎の冒険」要素（？）にニヤリとできる秀作である。

6位：村崎友「夕暮れ密室」【33点】

密室に拘りがある作者の多重推理物。密室を巡る推理のビルド＆スクラップは勿論

のこと、事件を通して描かれる青春の苦味が強烈で、特に最後に明かされる動機は色々な意味で読者の胸を打つことだろう。「月光ゲーム」や「密閉教室」が好きな人にこそお勧めしたい。

7位:倉知淳「片桐大三角とXYZの悲劇」【23点】

クイーンの悲劇四部作をテーマにした中編集。本作は言わば「五十円玉二十枚の謎」の再来であり、出されたお題「悲劇四部作」に対し今回も実に作者らしい逆説に満ちた解答を提示してみせる。加えて探偵役のキャラも強烈で、続編を期待したいところ。

8位:深緑野分「戦場のコックたち」【22点】

短編集「オーブランの少女」でデビューした作者の初長編作。第二次世界大戦のヨーロッパ戦線を舞台に米軍コック兵の視点で語られる本作は常に死と隣り合わせの状況下での特殊な日常の謎物であると同時に秀逸な戦争小説として前作以上の支持を集めている。

9位:米澤穂信「王とサーカス」【20点】

「さよなら妖精」に登場した大刀洗万智が探偵役を務める本作は犯人当てとしてみるとそれほど難易度は高くない。むしろ見所はその後に明かされるある真相であり、それが万智同様無自覚だった読者に痛烈な現実を突き付ける。作者らしい苦味に満ちた作品である。

10位:白井智之「東京結合人間」【16点】

前作で見せた鮎村行的グロテスクな世界観とロジカルな推理合戦を更にパワーアップさせた怪作。美少女の解体ショーから奇形人間たちによる孤島の連続殺人まで詰め込めるだけ詰め込んだ異形の物語は確実に人を選ぶが嵌まれば病みつき間違いなしである。

《11位以下の作品》

【15点】 久住四季「星読島に星は流れた」

【14点】 紙城境介「ウィッチハント・カーテンコール 超歴史的殺人事件」

【7点】 河野裕「その白さえ嘘だとしても」

【6点】 麻耶雄嵩「あぶない叔父さん」／麻耶雄嵩「化石少女」／若竹七海「さよならの手口」

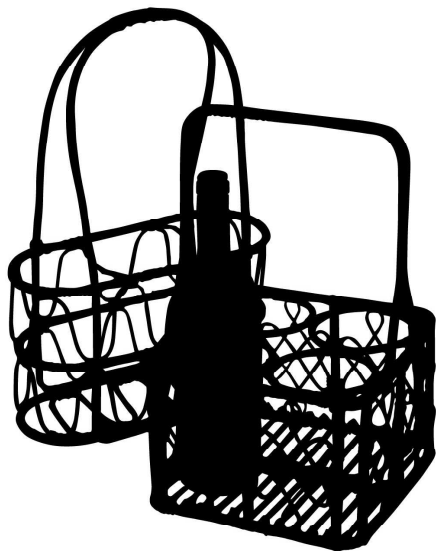
【5点】 浦賀和宏「究極の純愛小説を、君に」／浦賀和宏「ふたりの果て ハーフウェイ・ハウスの殺人」／皆藤黒助「ようするに、怪異ではない。」／北原尚彦「シャーロック・ホームズの蒐集」／東川篤哉「ライオンの歌が聞こえる」

平塚おんな探偵の事件簿2」

【4点】 大山誠一郎「赤い博物館」／平山夢明「デブを捨てに」／円居挽「シャーロック・ノート 学園裁判と密室の謎」

【3点】 川辺純可「焼け跡のユディトへ」／沢村浩輔「北半球の南十字星」／島田荘司「新しい十五匹のネズミのフライ ジョン・H・ワトソンの冒険」／知念実希人「天久鷹央の推理カルテⅢ 密室のパラノイア」／戸松淳矩「終戦のマグノリア」／藤野恵美「お嬢様探偵ありす 天空のタワー事件」

【2点】 河合完爾「救済のゲーム」／小林泰三「記憶破断者」／瀬川コウ「謎好き乙女と奪われた青春」／早坂吝「RPGスクール」／古野まほろ「外田警部、TGVに乗る」／岬鷺宮「失恋探偵の調査ノート～放課後の探偵と迷える見習い助手～」



【1点】 相沢沙呼「緑陽のクエスト・リリカ 魂の彫塑」／市川哲也「名探偵の証明 密室館殺人事件」／大槻一翔「薫子さんには奇なる解を」／北山猛邦「ダンガンロンパ霧切3」／滝田務雄「捕獲屋カメレオンの事件簿」／長江俊和「掲載禁止」／中山七里「ヒボクラテスの誓い」／藤谷治「茅原家の兄妹」／円居挽「キングレオの冒険」／山形石雄「六花の勇者6」

2016年度ランキングもお楽しみに！

2015年度エロミス研ランキング

対象期間、集計方法はミステリランキングと同様です。“エロミス”の評価基準としては『どれだけ自分がそのシチュエーションに興奮したか』です。早い話、恥も外聞もかなぐり捨てて、思う存分自分の性癖をさらけ出した赤裸々ランキングとなっております（爆）

各作品レビュー：麻里邑圭人

1位：早坂吝「虹の齒ブラシ 上木らいち発散」【60点】

「〇〇〇〇〇〇〇〇〇殺人事件」でエロバカミス界に颯爽と現れた新鋭の二作目。前作を溜めに溜めた〇マトの波動砲とするなら、本作はキレた〇田観柳のガトリング砲であり、さながら客の様々な要望に応じてみせるベテラン風俗嬢（？）のような作品である。

2位：鳥飼否宇「絶望的 寄生クラブ」【26点】

あのエロミスの怪物「官能的」の流れを受け継ぐ連作ミステリ。今回もまた初っぱなから処女膜を扱った前代未聞の密室ミステリで全国の紳士たちの心をガッチリ掴んでくれる。エロミスのベストは「出世作」で、そのくだらなさ（誉め言葉）が実に愛おしい。

3位：白井智之「東京結合人間」【18点】

「大樹（ひろき）の締まった肛門に、干果の人差し指がゆっくりと押し入ってきた。」……この冒頭の一行で胸がときめいた人は迷わず本作を読むことをお勧めしたい。前作「人間の顔は食べづらい」を遥かに上回るアブノーマルなエロミス世界がここにある。

4位：鳥飼否宇「死と砂時計」【9点】

異世界本格ミステリの連作である本作をエロミスたらしめているのは何と言っても男のいない状況で女囚が身籠る謎を扱った「女囚マリア・スコフィールドの懐胎」だろう。真相は脱力ながら、そのエロ漫画的シチュエーションに憧れる読者は少なからずいるに違いない。

5位：紙城境介「ウィッチハント・カーテンコール 超歴史的殺人事件」【8点】

本作は見立て殺人に新境地を拓いた画期的作品だがエロミスとしてみるとロリっ娘ヒロインの無防備な姿や殺人の嫌疑をかけられ拷問に堪える姿が見所となっている。ただ個人的にはもう少し拷問が過激な方が燃えた気がする。←

《6位以下の作品》

【6点】 井上真偽「その可能性はすでに考えた」

【5点】 松屋大好「宇宙人の村へようこそ 四之村農業高校探偵部は見た！」

【4点】 北山大詩「犯罪共鳴 壊兎2」／麻耶雄嵩「あぶない叔父さん」

【3点】 相沢沙呼「緑陽のクエスタ・リリカ 魂の彫塑」／九頭竜正志「さとり世代の探偵のゆるやかな日常」／倉知淳「片桐大三郎とXYZの悲劇」／西澤保彦「回想のぬいぐるみ警部」／松田志乃「号泣」

【2点】 大場規勝「たまふ！ 多磨大学附属超能力科」／中山七里「嗟う淑女」／深木章子「ミネルヴァの報復」

【1点】 村崎友「夕暮れ密室」

2015年度漫画・ゲーム・映像ミステリランキング

漫画、ゲーム、映像、その他を対象とした、ランキングです。対象期間、集計方法はミステリランキングと同様です。

作品レビュー：麻里邑圭人(3位、5位のみ ギガントドラゴン)

1位:松井優征「暗殺教室」15巻【12点】

ギャグの中に重要な伏線を隠す手法はここ最近では東川篤哉の十八番だが、本作もまたそれを見事に体現してみせた傑作である。但し今回挙げられた15巻は言わば解決編なので、このカタルシスを味わいたいのであれば1巻から順に読むことをお勧めしたい。

2位:加藤元浩「殺人のかたち」(「Q.E.D.iff」2巻)【10点】

密室殺人の謎もさることながら「何故、数学者の夫は悪妻を殺した犯人探しに奔走するのか？」というホワイダニットが興味を惹く一編。終盤の予想外のところからくる衝撃と共に描き出される犯人の業が何とも言えない余韻を残す。

3位:スジョイ・ゴーシュ「女神は二度微笑む」【9点】

踊らないインド映画であり緻密なミステリ映画。失踪した夫探しという物語の綾に

織り込まれた伏線の妙に唸る。ありふれたネタではあるが、演出とテーマでネタを光らせている点が好ましい。あとヒロインが超美人。

4位:加藤元浩「量子力学の年に」(「Q.E.D.iff」1巻)【8点】

新興宗教で起きた迷宮入りの乱射事件、何でも見通す不思議な鏡、百年後に発見されたミイラといった魅力的な謎の数々、そして何より量子力学を活かした唯一無二の解答とそれが浮き彫りにする犯人の絶望感が強烈な傑作である。

5位:CAPCOM「大逆転裁判」【7点】

名ディレクター・巧舟による3DS用ゲームソフト逆転裁判シリーズの最新作。逆転裁判三部作よりも試行錯誤の愉しみを強く打ち出し、キャラクターを駆使したユーモアも3Dモーションで進化を遂げた。伏線回収・ディテクションの演出のキレもさすがの一言。

《6位以下の作品》

【6点】 クリス・ミラー、フィル・ロード「22ジャンプストリート」

【5点】 ウィリアム・H・メイシー「君が生きた証」／田崎竜太他「仮面ライダードライブ」／ダン・ギルロイ「ナイトクロラー」／楓牙「俺の義姉さん」／光永康則「カコとニセ探偵」全4巻／三部けい「僕だけがいない街」6巻

【4点】 鈴木小波「燐寸少女」2巻(第12～13話)／トヨタドッグサークル「Smile Again」／ベネット・ミラー「フォックスキャッチャー」／山口ミコト、佐藤友生「陰口スゴロク」(「トモダチゲーム」2～3巻)

【3点】 青山剛昌「名探偵コナン」85巻／カンパニー松尾「完全版 BiSキャンボール 2014」／デイビット・ゼルナー「トレジャーハンター・クミコ」／福地翼「ネガティブレイン」(「サイケまたしても」3巻)／M・ナイト・シャマラン「ヴィジット」／和月伸宏「エンバーミング-THE ANOTHER TALE OF FRANKENSTEIN-」9巻

【2点】 加藤元浩「ブラクルアン」(「C.M.B.」29巻)／河添太一「謎解きドリル」2～3巻

【1点】 ダンテ・ラム「クリミナル・アフエア魔警」／山田鐘人、岡崎河亮「名無しは一体誰でしょう?」全5巻

投票へご協力ありがとうございました。



非実在探偵小説研究会～Airmys～11号

発行日 2016年5月1日
発行 エアミステリ研究会
連絡先 airmysdj@gmail.com
 <http://www43.atwiki.jp/airmys-dj/>
価格 700円
印刷所 株式会社ポプルス

Special Thanks

編集作業をお手伝いして下さったエアミス研有志メンバー

©2016 エアミステリ研究会 作品の著作権は各著作者に帰属しています